

Title	戦略提携におけるパートナー選択 - 事例研究を通じて -
Sub Title	
Author	田村耕太郎(Tamura, Koutarou) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第624号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0624">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0624</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0624

学生氏名 田 村 耕太郎

主査 奥 村 昭 博

副査 小 林 規 威

所属ゼミナール 奥 村 昭 博 研

嶋 口 充 輝

## 戦略提携におけるパートナー選択 — 事例研究を通じて —

最近の技術革新、企業のグローバル化、デレギュレーション等のスピーディーな展開は、企業間の戦略提携 (Strategic Alliances) を促進している。これは、かつて業務提携・合併・クロスライセンシング等と別々に呼ばれていたものを全て包含する広義の概念である。事業領域、市場等の多角化を目指す企業が共同行為をしようというのであるから、問題は簡単ではない。安易に時間・コスト・リスクを低減させようとしてこの選択を採用すべきではない。ドーナツという同じ商品を同じ時期に日本市場へ導入したダンキンドーナツ (米国1位)、ミスタードーナツ (米国2位) は、日本でその地位が大きく逆転した。その原因の一部は、提携パートナー選択にある。理想的な戦略提携は、パートナー間に相互補完関係が成り立ち、共通の目標の保有があり、提携の必然性が存在する時成立する。そして、理想的なパートナーとは、提携への必然性を持ち、同じような企業理念が存在し、互恵的で戦略の成功要因に直結するような資源ノウハウを持ったところである。このような点に留意し、提携パートナー選択を行い、戦略提携を行っていくべきである。